小山小学校

町田市小山町９４４番地　TEL　７９７－２７３３
http://www.machida-tky.ed.jp/e-oyama/

町　田　市　立　小　山　小　学　校
校長（発行責任者）　三瓶昌信
令和６（２０２４）年８月３０日発行
№５

創立151年　次のステージへ！校長としての思い

校 長　三瓶　昌信

いよいよ２学期がスタートします。この夏は「パリオリンピック」「高校野球」「大谷選手」と感動の場面が続きました。「パラリンピック」も大いに楽しみです。本校の２学期も同様に多くの感動の場面を期待しています。まだまだ暑い日が続きます。健康第一、安全・安心な学校生活を目指します。

４月、創立１５１年を迎える伝統校への赴任でしたが、無邪気で明るい「おやまっこ」に迎えられて、１学期間、楽しく過ごすことができました。私にとっては１０校目、どの学校でも子供たちの笑顔に救われてきました。子供って本当にすごいです。

昨年度からコロナ禍が明け、社会全体で様々な活動が幅を広げたり、再開されたりしています。しかし、すべてのことがコロナ以前に戻るわけではありません。この４～５年の間に社会は大きく変貌しています。ＩＴ化が急速に進み、私たちの生活のあらゆる面に浸透しています。

教育現場も大きな変化を遂げました。大袈裟ですが、明治から１００年以上にわたり、「黒板とチョーク」で授業が行われてきました。私自身も「チョーク１本で勝負！」という教員でした。それがコロナ禍の間に「教育維新」と言われるほどの大きな変革を迎えました。一人１台端末が一気に導入され、様々なＩＣＴ機器が学校に運ばれてきました。

さらに、教育活動も「全校休校」という事態を経て、あらゆることが制限され、多くの行事が中止になりました。その中でも町田市教育委員会の「学びを止めない」という指針のもと、保護者や地域の方々の協力を得て、教職員が知恵を出し合い、工夫を凝らして教育活動を進めてきました。この工夫こそ、今後の教育活動を進める上での大きな「種」となります。

日常の授業、学校行事等を全て旧来に戻すのではなく、コロナ禍で植えた種をどう育て、教育活動を進めていくかが、私たちの大きな使命です。その中心にいるのが子供たちです。子供は本来、友達と様々関わりながら、群れたり、時には衝突したりしながら成長するはずですが、コロナ禍では「触れ合ってはいけません」「もっと離れて！」…多くの場面でおしゃべりも許されないこともありました。１０歳前後の子供たちにとって、この４～５年の長さは大人が想像する以上に大きなものです。運動も制限され、体力も相当落ちています。それが、コロナ禍が明けた途端に「友達とたくさん関わりましょう」「班で話し合って」という大人の声…、昨日までと正反対の言葉です。コロナ禍の当り前が子供たちの当り前になっていたのです。なかなかすぐには切り替えられません。表現がよくないですが、他人との関わり方が相当下手になっていると感じています。

社会の多くは既に新たな歩みを始めています。私たちも子供たちと共に次へ歩みを進めます。「種」をしっかりと成長させる努力をします。

その一つとして、運動会を午前開催としました。「運動会」に対する子供たち、保護者や地域の思いは重々承知しております。昨年度の反省を考慮し、「授業時数の余剰時間の削減」「熱中症対策」「教職員の働き方改革」…様々な角度から検討を重ねてこの結論といたしました。また、体育科の「表現運動」の在り方から、「表現（ダンス）」は日常の授業に位置付け、運動会では「徒競走」「団体競技」等を実施します。

繰り返しになりますが、小山小学校長として、１５１年という新たなステージを子供たちはもちろん、保護者、地域の皆様と共に創っていきたいと考えています。ただし、黒板とチョークが 100 年以上変わらなかったように、学校、教育現場…って変化、改革を好みません。でも常に「改善」は必要です。教職員には「例年通りなんてあり得ない！」と伝えています。社会が大きく変わり、私たちの価値観も変化しています。子供たちももちろんです。「よき伝統と悪しき慣習」をしっかりと見定めて「地域協働学校」を進めてまいります。皆様のご理解ご協力のほど、よろしくお願いします。お力、お知恵をお貸しください。

運動会の詳細につきましては、改めてご案内いたします。